

**CO₂ 排出削減とコスト削減を同時に実現する「剪定枝葉受託加工サービス」を開始
～ 枝と葉を分別し、枝は名刺やコピー用紙、葉は園芸品に製品化 ～**

有限会社マッテル(大阪府豊能郡豊能町)は NPO 法人 DGC 基礎研究所(大阪府豊中市)と共同で、剪定枝葉(整枝剪定屑)を枝と葉に分別して製品化する「高度利用システム」を構築しました。2009年2月に枝を越前和紙に加工する活用法を新たに開発し、同年4月より、樹木の所有者から預かった剪定枝葉を名刺やコピー用紙などの事務用品、植物栽培セットや鉢植え野菜などの教材や販促品に製品化して返す「受託加工サービス」を開始、5年後に売上3億円を目指します。

● 剪定枝葉のリサイクルの現状と従来の資源化方法の課題

剪定枝葉は公園や街路樹などの維持管理において毎年大量に発生し、その多くは焼却処分されています。剪定枝葉のリサイクルにより CO₂ の排出を約 4 割削減(助燃剤による削減分は含まず)できます¹⁾が、枝と葉を分別せずに資源化する従来の方法では収集や加工に長時間を要したり、完成品の機能や種類が限定されるために需要が見込めず、リサイクルの普及は困難です。

● 剪定枝葉の収集・加工を効率化してコスト削減と高付加価値化を実現

本システムでは剪定枝葉の一次加工(粗破碎工程)を車載型粗破碎機により収集と同時にを行うため、収集車の台数を従来の約 3 分の 1、収集作業の時間を約 4 分の 1 に効率化できます²⁾。さらに、発酵しにくい枝は紙や木炭へ、栄養成分に富む葉(生葉)は土壌改良材や植物栽培用の培地などへ分別加工することにより、発酵期間を半分以下の約 3 か月へ大幅に短縮する(従来方法は約 6～12 か月)と共に、枝と葉それぞれの長所を生かした高付加価値化が可能となりました³⁾。

国や地方自治体、企業などでは費用を掛けて剪定枝葉を処分し、その一方で紙や土壌改良材、販促品などを購入しているため、本システムにより剪定枝葉を製品化して代替すれば、結果的に CO₂ の排出削減だけでなくコスト削減や PR 効果も期待できます。なお、本システムは国土交通省近畿地方整備局(国道 43 号)にて先行導入されています⁴⁾。

● 本件に関するメディアのお問い合わせ先

NPO 法人 DGC 基礎研究所 事務局長 邑瀬(むらせ)

〒561-0802 大阪府豊中市曾根東町 1-5-13 E-mail amur@dgcbase.jp

Tel / Fax 06-6857-2682

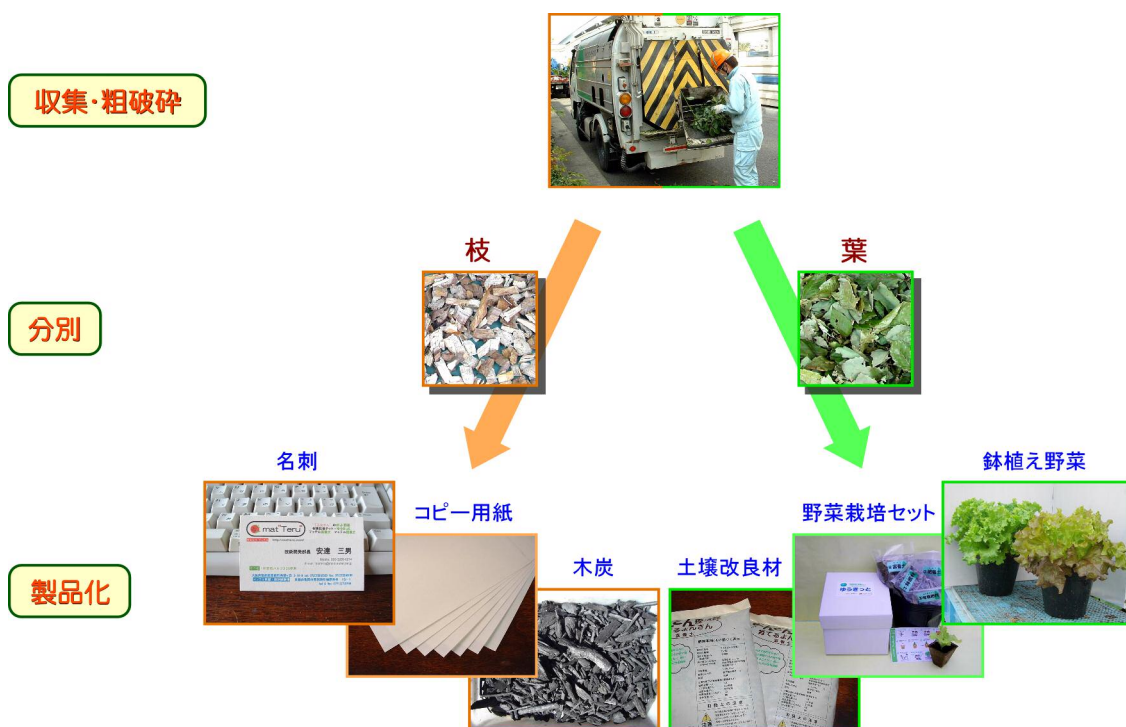
1) 環境情報科学、第 32 巻第 5 号、41～48 頁 (2004)

2) 建設省中部地方建設局(現:国土交通省中部地方整備局)中部技術事務所調べ (1998)

3) 添付資料①: 日本緑化工学会誌、第 33 巻第 1 号、281～283 頁 (2007)

4) 添付資料②: 国道 43 号エコ情報ニュース「よんさん」、第 20 号 (2007)

News Release



剪定枝葉受託加工サービス流れ図

■ 有限会社マッテル

代表取締役 安達三男

〒563-0214 大阪府豊能郡豊能町希望ヶ丘 3-16-9

Tel 072-728-2629 / Fax 072-728-6169 (携帯電話 090-3268-8974)

URL <http://matteru.com/>

■ NPO 法人 DGC 基礎研究所

代表理事 黒川 顕

〒561-0802 大阪府豊中市曾根東町 1-5-13

Tel / Fax 06-6857-2682

URL <http://dgcbase.jp/>

様々な分野の研究者が会員として集まり、科学技術のコンサルティングを行うNPOです。